

立憲民主党 横浜市会議員団



市長と共にヨコハマ新時代を切り拓く

議会だより

港南区版

発行:2021年10月1日

令和3年 横浜市会
第3回定例会中間報告

編集人:
横浜市会議員かじおあきら

横浜市会議員梶尾明 港南区政務活動事務所
〒234-0054 港南区港南台3-16-1 渡辺ビル

電話 : 045-353-5723
FAX : 045-353-5724

公式ホームページ



山中竹春市長就任後の初議会、公約実現に向け迅速果断に対応

■山中竹春市長、IR誘致を阻止



所信表明する山中竹春市長

9月10日から10月22日まで、令和3年第3回定例会を行われています。山中竹春新市長就任後初の議会となり9月10日の所信表明では「多くの市民から繰り返し聞こえるのはIR誘致に反対する声だ」と強調しました。これまでの市の計画では、資格審査を通過した2グループから夏ごろに事業者を選定する予定でしたが、「事業者選定のプロセスを直ちに中止し、必要な手続きを速やかに進める」と述べ、明言どおり9月30日に誘致推進を担う専門部署「IR推進室」を廃止しました。誘致に関連する予算執行の停止に関連し「減額補正額を精査し、財源として活用できるよう検討する」と述べました。山中市長の政策を盛り込んだ補正予算案は今後、市議会で議論されます。

■中学校給食 全員実施実現に向けて

4月から民間施設で調理した給食を弁当箱で学校に届ける「デリバリー型給食」を家庭弁当との選択制で導入しましたが、喫食率は2割程度にとどまっています。生徒からは「おかずが冷たい」などの声が上がり、山中市長は市長選挙でも全員喫食を公約しており、現行方式の見直しを検討しています。9月16日の市会本会議では、山中市長が給食に関するニーズを把握するために生徒や保護者にアンケートを行う方針を明言しました。全員が食べられる形での給食実現を目指し、最適な方式を検討すると意欲を示しました。

TOPICS



(左から) うらみち健一県議（港南区）、山中竹春市長、梶尾明市議（港南区）、
きしへ都県議（南区）、おぎわら隆宏市議（西区）

立憲民主党神奈川県第2区総支部（港南区・西区・南区）所属地方議員が一丸となり、立憲民主党が推薦した山中竹春市長を全力支援しました。

横浜市会議員梶尾明（港南区選出）の詳しい情報は⇒

かじおあきら



【新型コロナ】山中竹春横浜市長からの緊急事態宣言の解除に関する市民の皆様に向けたメッセージ(令和3年9月28日開催対策本部会議にて)

本日、政府は、神奈川県への緊急事態宣言期間を、9月30日をもって終了することを決定いたしました。

これを受け、横浜市は10月1日から、市民利用施設の新規利用受付を順次、再開し、20時までとしていた開館時間を21時までとします。市民利用施設でのアルコールの提供は、10月1日から24日までの間、原則、県の認証を受けた「マスク飲食実施店」のみとし、提供時間は20時までとします。また、市主催、又は共催のイベントは、人数の上限を1万人、開催時間を21時までとします。市立学校は、10月4日から分散登校をやめ、原則、通常登校とします。

延長を重ねて、2か月という長期にわたる宣言期間となりました。全面解除となるのは、実に4月以来となります。

このたびの決定を、多くの方が待っていたと思います。まずは、感染拡大の防止にご協力いただいた市民の皆様・事業者の皆様、そして、大変厳しい医療提供体制の中、ご尽力いただいた医療従事者の皆様に、心から感謝を申し上げたいと思います。

今回の第5波では、デルタ株が猛威を振るい、横浜市でも7月下旬から感染者数が急拡大しました。8月下旬から9月初旬にかけて、重症・中等症(等)の患者さん用の病床使用率も、一時、9割に迫る勢いでいたし、Y-CERT(ワイ・サーツ)での入院調整に時間を要するケースが多く発生しました。今回は、何とか持ちこたえることができたと思いますが、今後、感染の急拡大の可能性がありますので、決して気を緩めることはできないと考えています。

今後、冬に向けてインフルエンザが流行する季節となります。ワクチン(接種)を進めているところですが、インフルエンザが流行する季節が到来し、ウイルスの活動が活発化する可能性もありますので、感染者数に関しては引き続き、注視が必要です。また、(ワクチンを)2回接種した方であっても感染する、ブレイクスルー感染の可能性もあります。

今後、第6波が来る可能性があります。来ないことを願うばかりですが、冬の寒い時期に入り、第6波の山を少しでも低く抑えていくために、市民の皆様、事業者の皆様、医療従事者の皆様、国と県、横浜市が、それぞれの役割をしっかりと果たしていくことが大切だと考えます。

横浜市は、今後、「ワクチン接種の加速化」、「自宅療養者の支援の強化」、「病床の更なる確保」による医療提供体制の拡充、こういったことを行って、年齢・ライフスタイルに合わせたコロナ対策を行っていく予定です。コロナに関してどういったデータを出すのか、この1か月、関連部局とともにコロナに関するデータをわかりやすくオープンにしていくため検討してきましたので、今後発信を行っていく予定です。

各本部員(市職員)に指示します。

大きなりバウンドを何としても回避するという姿勢で、リーダーシップを一層發揮して、各所属に求められる役割をしっかりと果たしてください。また、勤務時間内外を問わず、基本的な感染症対策を行い、感染リスクが高い行動は避けるよう、職員一人ひとりに周知を徹底してください。

市民の皆様にお願いいたします。

外出は、混雑している場所や時間を避けて、できる限り少人数で行動してください。21時以降は、外出の自粛をお願いします。これから秋の行楽シーズンを迎えますので、感染者数の急激なリバウンドを避けるためにも、帰省や旅行、出張など県をまたいで移動する際は、特に感染防止策の徹底をお願いします。

事業者の皆様にもお願いいたします。

10月1日から24日までの間、「マスク飲食実施店」では、20時までのアルコール提供、21時までの時短営業にご協力をお願いします。それ以外の飲食店等では、原則として、アルコール提供の終日停止、また、20時までの時短営業をお願いします。テレワークやローテーション勤務、時差出勤、昼食時間の分散化など、通勤・在勤時の密を防ぐ取組にご協力をお願いします。

5か月を超える時短営業、アルコールの提供停止で、飲食店をはじめとする事業者の皆様には大変厳しい状況になっています。横浜市は、制度融資による資金繰り支援をはじめ、コロナ禍で新たな事業を開拓するための設備投資への支援など、これまでに(延べ)8万2千を超える事業者の皆様をご支援してまいりました。

「市民の皆様の命と暮らしを守りながら、横浜経済を回復する」、この両立を目指して、横浜市は今後も、国や県、医療機関の皆様と連携し、コロナ対策を進めてまいります。